



小さきものはみな美しⅡ
令和6年1月24日(水)～29日(月)

この企画は、作家と同年代の若い人たちにも現代工芸に興味を以て欲しいという、強い想いから始まりました。そのため、小さくても魅力的であること、凛として存在感があること、少し無理をすれば購入できる価格であることなどを条件に、陶芸と金属の作家十人に依頼しました。第二回展には、畠山耕治氏と加藤委氏のお二人に特別ゲストとして参加していただきました。作品を依頼するもう一つの条件として、「書斎と茶室—二つの空間に置くもの—」ということをお願いしました。書斎という知の空間は、制約のある茶の湯の空間よりも自由です。机上には、文鎮や水滴、書棚には玉や青銅器、石造、金銅仏、小さな陶磁器、オブジェなどが飾られます。茶室には、香合や香炉、茶入などの小さな道具、茶籠・茶箱に入れる茶器や振出し、小服茶碗など、若い人には大変人気があるようです。第一回展は小さいものだけに限りましたが、第二回展では普通の大きさのものも出品していただきます。

伊勢崎晃一郎の《引出黒茶器》は真つ赤なうちに窯から引き出し、粗殻の中に埋めて冷却したもの。すると漆黒の黒ではなく、やや緑つ

高橋奈己の《白磁茶器》は、鋭いエッジとゆるやかな曲線から生まれる陰影の美しさが魅力的だ。その作品は、複数のパーツに分けて「铸込む」という手間のかかる工程を通して制作される。平成二十八年日本工芸会新人賞を受賞するが、作品の大小に関係なく緊張感がある。

戸田浩二の《焼締ノ塔》は、百万塔陀羅尼をイメージした作品であろうか。そうであれば、この《焼締ノ塔》は、コロナ禍における作者の鎮護国家の祈念が込められているのかも知れない。規則正しい螺旋が天を指して伸び、外からは見えない底部にも螺旋が潜んでいる。

中田雅巳の《ころ》にはいろんな意味があるが、ここでは「丸いもの」「小さきもの」の意味であろう。斜めに切った円柱の先端や楕円形の片面を削り貫いた中に、小さな釉薬の結晶を付けアクセントとしている。用途性はないが、小さなかたちの面白さに挑戦している。

畠山耕治の《六つの面》の魅力は、その造形も然ることながら、青銅の腐食によって生まれる模様の美しさであろう。内部には金箔を張り、

ばいガラス質になったという。ざつくりとした面取が何ともいえない趣を醸し出し、これまでの備前にはない魅力を引き出している。

市岡真治の《銅水滴》は、中国・宜興窯の朱泥茶銚を模したもの。水滴であるから蓋は取れない。蓋中央の鈕が空気穴となっている。やや上に付けられた把手と、直線的に伸びた注ぎ口に緊張感を感じる。素朴ながら力強い作品であり、市岡の技量の確かさが伝わってくる。

加藤貢介の《View 花器》は十八世紀に途絶えたといわれている「ダマスカス鋼」を、現代美術として蘇らせた作品である。流れるような曲線を活かした立体作品は国内外でも知られているが、小さな作品であつてもその独特な模様から醸し出される魅力は変わらない。

加藤委の《染付水指》は、磁土の可塑性を活かしたシャープでダイナミックな作品で知られる加藤らしい、勢いよく筆を走らせた作品である。小さな作品は今制作中とのことだ。今展には、鋭いナイフで無造作に切り落としたような面取の香合や酒器などが出品される。

空虚な暗闇ではなく、金色の仏性世界を表現している。作品の大小に関係なく、凛として存在感があり、深い思想を内包している。

星野友幸の《香合椿》は、工房の裏に自生する藪椿の実を拾って型に起こし、香合にしたもの。グレーの顔料を混ぜた土にピンクの顔料を少しだけ加えて焼成したという。その痕跡が身の部分にほのかに見える。角度によって、香合のかたちが違って見えるのも面白い。

留守玲の《軀体b》とは、建物を支える構造部材を意味し、柱、梁、床、壁などを指す。正方形の枠で網状の壁を作り、その空間の中に長短の線で柱や梁を表現している。「一本の線の中にも微細が見えるようになってきた」と語る、作家の感性の世界が構築されている。



伊勢崎晃一郎
Isezaki Koichiro

昭和49年 岡山県備前市伊部に人間国宝 伊勢崎 淳の長男として生まれる
平成8年 東京造形大学 彫刻科 卒業
平成10年 渡米 ニューヨーク在住の陶芸家 ジェフジャビロ氏に師事
平成12年 帰国後父 伊勢崎 淳に師事
平成21年 第26回 田部美術館 茶の湯の造形展 奨励賞 (平成24,28年)
平成22年 第53回 日本伝統工芸 中国支部展 日本工芸会賞
平成26年 第15回 福武文化奨励賞
令和2年 伊勢崎晃一郎展 成る (LIXILギャラリー/東京)
令和5年 2022年度 日本陶磁協会賞、マルセン文化賞

引出黒茶器
W5.0×D5.0×H8.7 cm

小さきものはみな美しⅡ

会 期 令和6年1月24日(水)～29日(月)
会期中無休

開 廊 時 間 11:00～19:00
※ 最終日の1月29日(月)は17:00まで

出 品 作 家 伊勢崎晃一郎
[在廊予定日] 市岡真治 1月24日(水)、25日(木)、29日(月)
加藤貢介 1月24日(水)、27日(土)～29日(月)
加藤 委
高橋奈巳 1月24日(水)、25日(木)、27日(土)
戸田浩二 1月24日(水)
中田雅巳 1月24日(水)
畠山耕治
星野友幸 1月24日(水)、27日(土)
留守 玲 1月28日(日)、29日(月) (五十音順)

会 場 柿伝ギャラリー KAKIDEN GALLERY

〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-37-11 安与ビル地下2階
(JR新宿駅 中央東改札より徒歩1分)
TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335
MAIL gallery@kakiden.com

柿伝ギャラリーHP



公式Instagram



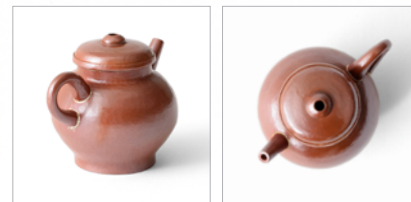


加藤貢介
Kato Kosuke

昭和 63 年 神奈川県生まれ
平成 22 年 玉川大学芸術学部 ビジュアル・アート学科 卒業、玉川大学芸術学部卒業制作展 学部長賞
平成 24 年 広島 KAZARU 展 広島市長賞
平成 25 年 広島市立大学大学院 修了、次世代工芸展 秋元雄史賞
平成 27 年 Powerful Expressions 加藤 貢介 鐵層ーてっそうー(清課堂ギャラリー／京都)
令和 元年 第 35 回 淡水翁賞 優秀賞
令和 4 年 2022 金沢・世界工芸コンペティション 審査員特別賞
現在 神奈川県綾瀬市にアトリエを構え制作

View 一花器ー

[左] W8.0×D4.5×H6.5cm
[右] W5.0×D3.5×H10.0cm



市岡真治
Ichioka Shinji

昭和 51 年 広島県生まれ
平成 14 年 多摩美術大学大学院 美術研究科 修了
現在、神奈川県小田原市にて鍛金による作品を制作

銅水滴

W6.8×D4.9×H5.1cm



高橋奈己

Takahashi Nami

平成 9 年 武蔵野美術大学 短期学部 専攻科陶磁コース 卒業
 平成 9~11 年 ファエンツァ国立陶芸美術学校 在籍 (イタリア)
 平成 28 年 日本伝統工芸展新人賞、女流陶芸展 T 氏賞
 平成 29 年 日本陶芸展 茨城県陶芸美術館賞
 平成 30 年 現代茶陶展 TOKI 織部大賞
 令和 元年 岡田文化財団設立 40 周年記念 第 14 回パラミタ陶芸大賞展
 「近代工芸と茶の湯のうつわー四季のしつらいー」(国立工芸館)
 令和 3 年 「未来へつなく陶芸ー伝統工芸のチカラ 展」(パナソニック汐留美術館・全国巡回)
 令和 4 年 「The Fourth Dimension うつわの未来へ」(益子陶芸美術館)

白磁茶器

W7.9×D8.0×H7.9cm



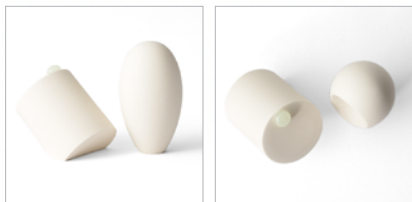
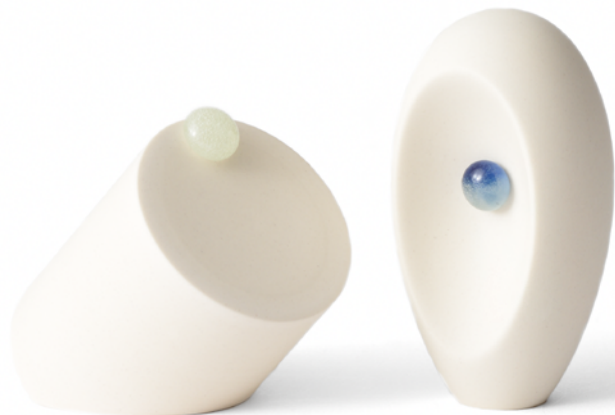
加藤 委

Kato Tsubusa

昭和 37 年 岐阜県多治見市生まれ
 昭和 54 年 多治見市陶磁器意匠研究所 修了
 昭和 61 年 尼ヶ根古窯発掘調査参加
 平成 14 年 「現代陶芸の 100 年」展 (岐阜県現代陶芸美術館)
 平成 15 年 「白磁・青磁の世界」展 (茨城県陶磁美術館)
 平成 22 年 「試みの茶事・北の丸大茶会」(東京国立近代美術館)
 平成 25 年 日本陶磁協会賞、円空大賞

染付水指

W19.5×D18.5×H16.5cm



中田雅巳

Nakada Masaru

昭和 52 年 石川県生まれ
平成 9 年 石川県立九谷焼技術研修所 基礎コース 卒業
平成 19 年 金沢市工芸展 最優秀賞 (同 21 年)
平成 26 年 「Maister der Moderne」Bavarian States Prize 賞 (ドイツ)、「現代・陶芸現象」(茨城県陶芸美術館)
平成 29 年 菊池ビエンナーレ 奨励賞、日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞展 奨励賞
平成 30 年 「陶芸～新世代の技とカタチ」展 (札幌芸術の森工芸館)
令和 3 年 「近代工芸と茶の湯のうつわー四季のしつらいー」(国立工芸館)
北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI「工芸の時代。新しい日常」特別展 II
令和 4 年 北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI「工芸×Designがつくるこれからの暮らし」

ころ

[左]φ4.6×H6.0cm
[右]W4.3×D3.8×H7.5cm



戸田浩二

Toda Koji

昭和 49 年 愛媛県西条市生まれ
平成 8 年 筑波大学 体育専門学群 卒業
平成 10 年 伊藤東彦に師事 (～平成 14 年)
平成 14 年 茨城県笠間市に薪窯を築く
平成 24 年 「GEMSTONEー笠間の 4 人」(茨城県陶芸美術館)
平成 29 年 「戸田浩二展 一聖水ー」(LIXIL ギャラリー／東京)
令和 元年 「土と抽象 記憶が死に生まれるとき」(益子陶芸美術館)
令和 4 年 「The Fourth Dimension うつわの未来へ」(益子陶芸美術館)
令和 5 年 「第 17 回 パラミタ陶芸大賞展」(パラミタミュージアム／三重)

焼締ノ塔

φ9.0×H11.2cm

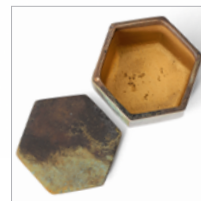


星野友幸

Hoshino Tomoyuki

昭和 51 年 山梨県甲府市生まれ
平成 11 年 横浜市立大学 商学部 卒業 人材サービス企業にて5年間勤務
平成 17 年 京都府立陶工高等技術専門学校 成形科修了 猪飼祐一氏に師事
平成 19 年 東京都国分寺市にて独立
平成 25 年 第 60 回 日本伝統工芸展 日本工芸会奨励賞
第 5 回 菊池ビエンナーレ 奨励賞
平成 29 年 第 11 回 国際陶磁器展美濃 審査員特別賞 (選: 藤本壮介氏)
「星野友幸一人シリーズ」(LIXIL ギャラリー/東京)
令和 元年 「陶の表現四人展」(銀座和光ホール)
令和 5 年 「陶芸の進行形」(菊池寛実記念 智美術館/東京)

香合 椿
φ3.1×H4.8cm



畠山耕治

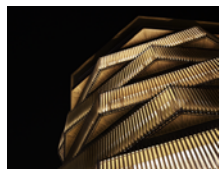
Hatakeyama Koji

昭和 31 年 富山生まれ
昭和 55 年 金沢美術工芸大学 工芸科鑄金専攻 卒業
平成 13 年 タカシマヤ文化基金 タカシマヤ美術賞
平成 19 年 佐野ルネッサンス鑄金展 大賞
平成 24 年 MOA 岡田茂吉賞 MOA 美術館賞
平成 29 年~令和 4 年 金沢美術工芸大学 工芸科 教授
令和 4 年 個展「青銅を鑄る」(菊池寛実記念 智美術館/東京)
令和 5 年 第一回 アジア現代美術賞大賞 (アジアアートフェア/ロンドン)

六つの面
W5.0×D4.5×H4.0cm

価格表

作家名	作品名		本体価格/円 (税込価格/円)	作品サイズ(cm)
伊勢崎晃一朗	引出黒茶器 [桐箱付・後日]	P5	80,000 (88,000)	W50×D50×H8.7
市岡真治	銅水滴 [桐箱付・後日]	P6	30,000 (33,000)	W6.8×D4.9×H5.1
加藤貢介	View 一花器一 [桐箱付・後日]	P7	各 120,000 (各 132,000)	[左] W80×D4.5×H6.5 [右] W50×D3.5×H10.0
加藤 委	染付水指 [桐箱付・後日]	P8	300,000 (330,000)	W19.5×D18.5×H16.5
高橋奈己	白磁茶器 [桐箱付・後日]	P9	50,000 (55,000)	W7.9×D8.0×H7.9
戸田浩二	焼締ノ塔 [桐箱付・後日]	P10	60,000 (66,000)	φ90×H11.2
中田雅巳	ころ [箱無し]	P11	各 20,000 (各 22,000)	[左] φ46×H6.0 [右] W4.3×D3.8×H7.5
畠山耕治	六つの面 [桐箱付]	P12	150,000 (165,000)	W50×D4.5×H4.0
星野友幸	香合 椿 [桐箱付・後日]	P13	18,000 (19,800)	φ3.1×H4.8
留守 玲	軀体b [桐箱付・後日]	P14	120,000 (132,000)	W10.5×D3.4×H11.2



新宿で大人の道草を。

不器用ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

お陰様で、弊廊のある「安与ビル」が国の登録有形文化財に登録されました。



留守 玲

Rusu Aki

昭和51年 宮城県生まれ
平成15年 第11回 日本現代藝術奨励賞
平成19年 工芸のカー21世紀の展望 (東京国立近代美術館工芸館)
平成24年 「留守玲の茶室 さびのけしき」 (山口県立秋美術館・浦上記念館)
平成28年 第2回 菊池寛実賞 (智美術館)、第27回 タカシマヤ美術賞
平成29年 第34回 淡水翁賞 最優秀賞
令和2年 国際工芸アワードとやま 優秀賞
令和4年 Contemporary Metalwork 変貌する金属 (岡山県立美術館)
現在、多摩美術大学 工芸学科 准教授

軀体b

W10.5×D3.4×H11.2cm



160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11
神谷ギヤール
KAKI-GALLERY